



彩の国埼玉県

埼玉県立  
歴史と民俗の博物館

# THE A MUSEUM

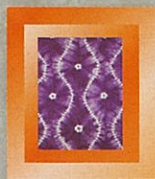
Vol.2-3 第6号 2008.2.1.

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

特別展

## 日本の色彩

藍・紅・紫



平成20年2月9日(土)～3月23日(日)

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館  
協力 桶川市歴史民俗資料館  
全国青年印染経営研究会

日本人は、色彩や色の表現に繊細な感性や独自の感覚をもっているといわれます。日本において「色」とは、身分や地位、季節や方位、立場や年齢、また感情を表すものでもありました。

日本古来の色、伝統色とされている色はいくつかあげられますが、なかでも「藍・紅・紫」の三つは、その歴史、色相(色のバリエーション)の豊富さ、現代に伝わる様々な作品、古代から受け継がれてきた染色技術など、日本人にとって、そして埼玉にとっても、とりわけかわりの深い色でした。

今回の展示では、この「藍・紅・紫」を中心に、日本人の美意識と色の世界を様々な角度・視点から取り上げてみました。

### <目次>

- ◆ 特別展「日本の色彩 藍・紅・紫」・・・・・・・・・・ 1～3
- ◆ 蚕の神様・木村九蔵の養蚕改良と普及・・・・・・・・・・ 4
- ◆ ゆめ・体験ひろば この1年・・・・・・・・・・ 5
- ◆ 歴史のしおり「2.26事件と埼玉県」・・・・・・・・・・ 6
- ◆ 民俗展示室が新テーマで内容を一新!!  
一年を生きる～埼玉の祭りと行事～・・・・・・・・・・ 7
- ◆ 歴史と民俗の博物館イベント情報(2月～6月)・・・・・・・・ 8

## プロローグー古代の色ー

古代の遺跡から出土する土偶や埴輪などには、赤い彩色が施されているものがみられます。赤は生命を象徴する色として、特別な意味合いを持っていました。

また、シルクロードを通じてペルシャや中国の文物や色彩がもたらされました。遺跡からは鮮やかな青や緑のガラス玉も出土しているほか、正倉院には彩り豊かな染織品やガラス製品などが伝えられました。

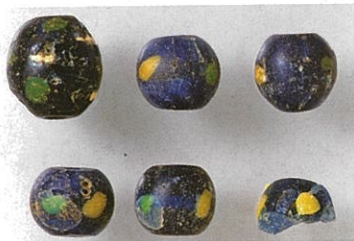
### 1 藍・紅・紫の諸相

藍は藍草の葉、紅は紅花の花弁、紫は紫草の根を染料とする植物染料です。

推古天皇 11 年 (603) に冠位十二階の官職・位階の色が制定された際には、藍・紅・紫の三色は紫を頂点として高位の三色におかれしました。

古い歴史をもつとともに多彩な表現が可能で、日本人にとって特別な思い入れのある、なじみの深い色、それが藍・紅・紫です。古代から中世、そして近世に到るまでその時代を象徴するような様々なものに使われ、染められ、愛されてきました。

このコーナーでは、『延喜式』に見られる色彩の再現をはじめ、甲冑、浮世絵など様々な作品にみられる藍 (青)・紅 (赤)・紫の色彩表現を紹介します。



白石古墳群出土  
トンボ玉  
(美里町教育委員会)



大袖 (紫裾濃威)  
(國學院高等学校)

## 2 藍

藍は、藍草の葉や茎を原料とします。日本では古墳時代に大陸から伝えられたタデ科の「蓼藍」が藍染に用いられました。絹や毛などの動物性繊維にも、麻や木綿などの植物性繊維にもなじみがよく、染めの回数によって、白に近い薄い青から黒に近い濃紺までの多くの色相で染めることができます。

藍を濃く染めた「紺」は虫除けや蛇除けの効能があるとされていたことから、武士や貴族から庶民にまで普及しました。中世には藍染を専門とする職人集団も生まれ、「紺掻」などとよばれていました。

近世以降、藍 (色) は日本人の生活に不可欠な色となり、「紺屋」は染色業者の代名詞ともなりました。また、明治時代には「ジャパン・ブルー」と称され、日本を代表する色彩となっています。

藍の生産 (栽培・加工) は阿波 (徳島) の藍が有名ですが、埼玉県域でも江戸時代から藍の栽培が行われており、明治初期には阿波藍に次ぐ全国第二位の生産高を誇っていました。また、藍染も県東部の加須・羽生を中心に「青縞」が、県南部の八潮・草加周辺では「長板中形」が盛んに行われていました。

このコーナーでは、藍染衣裳をはじめ、長板中形や青縞製品、その染色技法などを紹介します。



紺綸子地  
菊水模様紋 縫小袖  
(国立歴史民俗博物館)



長板中形 (埼玉県立歴史と民俗の博物館)

### 3 紅

紅花はキク科の単年草で、原産地は地中海沿岸からナイル川流域といわれ、日本には古墳時代に大陸から伝えられたようです。6世紀の藤ノ木古墳（奈良県斑鳩町）からの花粉の出土が最古とされていますが、最近では3世紀の纏向遺跡（奈良県桜井市）からも紅花花粉が確認され、話題を呼びました。

紅も藍と同様、紅の使用量によって濃淡さまざまに染め分けられ、染色のほか、口紅などにも加工されました。平安時代には紅染や紅の精製には多量の紅花が必要であったため、稀少で高価な染料として珍重され、朝廷によって濃い紅色は禁制の色（禁色）となりました。

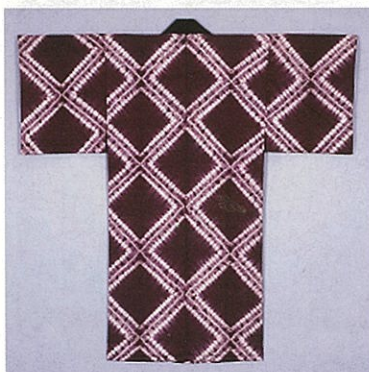
紅花は、初夏に黄色の花をつけます。花がわずかに赤みをおびた頃に摘み取り、水で揉んで発酵させ、臼で搗いて餅状にして少量ずつ丸め、平らにのばし、天日乾燥させます。これを「紅餅」といいます。江戸時代以降は主に山形地域で栽培され、「最上紅」として全国シェアの半分以上を占めていました。

埼玉県域でも中山道筋の上尾・桶川や川越・坂戸周辺で紅花が栽培されており、それぞれ「桶川臙脂」「西山紅」などと称され、良質であるとして次第に名声が高まり、江戸後期には最上に次ぐ全国第二位の生産高を誇ったこともありました。

このコーナーでは、最上の紅と武州の紅を屏風や絵巻、紅染衣裳、絵馬、文書などから紹介します。



紅花絵巻  
(部分・個人)



紫根染絹襦袢  
(秋田県立博物館)

### 4 紫

紫草はムラサキ科の多年草で、日本全国に自生していたとされますが、現在は野生種はほとんど見られません。根は生薬としても珍重されました。

古来、紫色は高貴な色とされており、常に衣服の最高位に置かれていました。これは紫草の栽培が難しく、染色にも手間と技術を要したことにもよります。紫色のもつ優雅さや気品、深い情趣などは文学作品にも影響を与えてきました。

江戸時代には、武蔵野台地周辺で「江戸紫」を染める紫根栽培が行われるようになり、埼玉県域でも、川越・所沢周辺で生産されていました。優品とされていたのが岩手の「南部紫」で、盛岡藩の保護を受け、紫根染も行われていました。

このコーナーでは、武蔵野の紫と南部の紫を文献や紫根染衣裳などから紹介します。

#### エピローグー現代・未来に続く色ー

近代以降、化学染料の流入などにより、伝統的な染色技法の中には技術の伝承が困難になったものもあります。しかしそのような中でも、失われた技法の復活や、伝統を受け継ぎながらも新しい色を作りだそうとする試みもなされています。

本展示をご覧いただくことで、色彩の美しさとともに、卓越した技術やそれを支える多くの人々、未来への展望などに思いをはせていただければ幸いです。  
(展示担当 井上かおり)

#### 関連事業

##### (1) 草木染め体験講座

- ①紅花染め 2月24日(日)午後1時30分から  
講師：関根 訪氏(桶川市教育委員会)
- ②野草染め 3月2日(日)午後1時30分から  
講師：峯 史仁氏(野草染め・組紐職人)
- ③藍染め 3月9日(日)午後1時30分から  
講師：相澤享宏氏(藍染め職人)

##### (2) 印染(しるしぞめ)展示会

- 期間：3月4日(火)～23日(日)
- 主催：全国青年印染経営研究会
- 内容：印半纏・幟・のれんなどの新作展示会

##### (3) 展示解説

- 2月10日(日)・23日(土)・3月16日(日)
- 午後2時から

# 学芸員のおと <sup>かいこ</sup> 蚕の神様・木村九蔵の養蚕改良と普及

「暖かい風が地上をなめる頃になると広漠たる桑園は一聲に笑ひ始め、緑の大葉が枝をたわめる。すると水晶の虫、蠶はそれを食んでビイドロの糸を出す。かうして美しい絹が乙女の手で絲にひかれ、機に織られて愛の衣に縫はれるのであった」(細井和喜蔵『女工哀史』より)。

この絹こそ、近代日本の国づくりを進める輸出産業の花形であり、富国強兵を推進し、世界に伍して行くための唯一とあっていいほどの資金源でした。それは国家の重い要請を担った産業であり、人々がその営みに、どれほどの情熱を傾けたかは、現代のわれわれには想像もつきません。

**温暖育を發明** 蚕の神様といわれた木村が、生涯を養蚕の研究にかけ、明治のわが国で驚異的といえる飼育法を考案したのも、そうした時代が背景にありました。

わが国で古くから行われた養蚕は、自然育・放任育といって、お天気まかせ、運まかせの生産方法でした。木村はこの自然育に対して、「一派温暖育」を發明します。一口にいえば火力応用による換気乾燥育です。

12歳のとき、おもちゃ代わりにもらったバリ紙が、木村と蚕との出会いでした。卵がついた紙から、ちっぽけなムシが生まれ、蚕に育ちました。やがて蚕は、ビイドロの糸をはき出します。木村は「水晶の虫」のとりことなっていました。

ところが、蚕はおしゃり病に犯され、次々と死んでいきます。試行錯誤が続きます。子どものころの体験がよみがえり、「あのときは階下にいつも火が絶えず、2階は適度な暖かさ、乾湿があった。陰湿な家屋では養蚕に不適當なのでは……。温度を上げれば育ちも速くなるのでは……」。

養蚕の盛りは夏。室温は30度を超えます。汗にまみれ、飼育日誌に朝、昼、夜の室温を克明に記しました。少年時代のヒントと先人の経験をもとに発見した火力応用の飼育法は、ついにおしゃり病を駆逐、良質のマユを生み、短期間で飼育できる省力化をもたらしました。

**競進社の設立** 明治10年(1877)木村は温暖育法を普及、教授する目的の「競進組」を神川町に設立。17年蚕業伝習所を開き、加入者の増加とともに19年競進社と改称し、本社を本庄市(旧児玉町)へ移転します。伝習所は本庄市(旧児玉町)のほか県内各地に設けられ、「安い経費、短期間飼育、蚕病おしゃり皆無、そして上質マユの多収量」を掲げ、全国にその名を知られます。

**隆盛見ず没す** 20年の伝習所の教授員は389名を数え、教授員派遣地は2府16県に及び、巡回戸数は6465戸に達していました。伝習所は32年までに6500名あまりを全国へ送り出します。大正初期には支部数31、社員数3万名を擁する大世帯に発展していました。

やがて、各県に蚕種製造所が設けられますと、技術員派遣の要も薄れ、競進社の事業は学校経営のみとなり、大正12年(1923)競進社は解散します。

競進社はその後、明治33年「競進社蚕業学校」を開校。北海道を除く全国から生徒が集まり、遠く朝鮮や中国からやってくる者もありました。

木村は31年、53歳で他界。この隆盛を知りませんでした。が「養蚕ハ御国産ノ冠タルモノ」とし、養蚕方法改良によって「上ハ御国産ノ増額ヲ謀リ下ハ農庶ノ財産ヲ増加シ広く蚕業ヲ隆盛ナラシメン」(「養蚕改良競進社設立願」)との志は成ったのです。

その遺産は、いまま競進社実業学校から校名は変わっても後の児玉農学校、県立児玉農高、県立児玉白楊高校に受け継がれています。

(主席学芸主幹 昼間 孝次)



県北でよく見かける高窓つきの家に一派温暖育の特徴がある。八高線児玉駅近くの競進社模範蚕室。



# ゆめ・体験ひろば この1年



平成19年3月24日にプレオープンした、ゆめ・体験ひろばはもうすぐ1年を迎えます。最近ではいわゆる「常連さん」もできて、博物館の新しい顔としてすっかり定着してきました。

ゆめ・体験ひろばには、藍染めハンカチや江戸組紐ストラップ、まが玉などを自分で作ることができる「ものづくり工房」、時代衣装の着体験や浮世絵はがきの製作等ができる「自由自在座」、昭和30年代の思い出がよみがえる「昭和の原っぱ」があります。11月までの約8ヶ月間ののべ入場者数は約3万人。その中でも藍染めハンカチは約3000人、まが玉は約4000人、江戸組紐ストラップは約600人のお客さんが製作体験しました。その人気の秘密は、やはり「世界で一つだけ」のものを作る喜びでしょう。

また特別メニュー（実施日限定、事前予約制）として、藍の型染めや木目込み人形、張り子人形、組紐帯締め、ベーゴマ、福熊手、団扇などなどの、本格的な製作体験プログラムを実施しています。これらは、とくに埼玉県に縁の深い伝統工芸について関心と理解を深めてもらうことを目的に行っているもので、専門の職人さんが直接指導するも

のもあります。だれでもプチ職人になれる、貴重な機会をお見逃しなく！

ゴールデンウィークや夏休みには、昔なつかしいノスタルジックイベントを開催しました。ゆめ・体験ひろばでは、わた飴やポン菓子、飴細工などのお菓子をほおばりながら、紙芝居や学生ボランティアが演ずる活劇を観てもらったり、木管3重奏やオペラ・アリアのすばらしい(?)演奏を楽しんでもらったりしました。

これら、ゆめ・体験ひろばの運営にはボランティアの活躍が欠かせません。現在活動している体験学習ボランティアは約60人。4月当初はぎこちなかった対応でしたが、今では職人顔負けの腕前でお客さんに満足感を提供しています。そして、藍染めや鑄造など専門的な技術のバックアップをいただいている団体（博物館クルー）の方々もいます。

このように、多くの方々の御協力により、運営されているゆめ・体験ひろばです。これからも新たな体験プログラムを開発し、充実させていきたいと考えています。みなさんもぜひ「ゆめ・体験」しに来てください。（学習支援担当 岡本健一）



①



②



③



④



⑤

- ①ものづくり工房のにぎわい
- ②自由自在座
- ③昭和の原っぱで遊び体験
- ④だれが一番強いかな？
- ⑤モーツァルト登場！

雪が降り出した、昭和11年(1936)2月26日未明にその事件は起こりました。「昭和維新」をめざして、『尊皇討奸』を合言葉として陸軍皇道派の20名の青年将校に率いられた約1,400名の兵士が総理大臣官邸・斉藤実内大臣私邸・渡辺錠太郎陸軍教育總監私邸・高橋是清大蔵大臣私邸・鈴木貫太郎侍従長官邸・牧野伸顕前内大臣別邸湯河原伊藤屋旅館や警視庁・朝日新聞社などを襲撃するという、一大クーデターで、まことにショッキングな出来事でした。

この事件で、岡田啓介首相の身代わりとして、首相秘書官をしていた義弟の松尾伝蔵大佐が犠牲になり、高橋蔵相・斉藤内大臣・渡辺教育總監が射殺され、岡田首相・牧野前内大臣と鈴木侍従長が辛くも命を拾いました。舞台になったのが東京都で、埼玉県とは一見関連はなさそうに見えますが、意外に関わりが深いものでした。

なぜならば、この事件に参加した兵士は陸軍の歩兵第一連隊・歩兵第三連隊・近衛歩兵第三連隊に所属していたものがほとんどでしたが、歩兵第三連隊からの参加者には埼玉県出身者が多数いたからです。

27日午前2時40分に戒厳令の施行が決定され、前日に遡って戒厳令が発令され、永田町界隈が戦場となり、赤坂近辺の住民は日常生活にも支障が出ましたが、「反乱軍を早く鎮圧せよ」という昭和天皇の意向もあり、陸軍も討伐ということに決し、29日午前9時の討伐軍の攻撃開始を前にして、反乱軍も解散・原隊復帰して漸く事件が終結しました。

事件に参加した兵士たちは、参加しなかったものより冷遇されて、特に、最後まで徹底抗戦を続けた安藤輝三大尉の率いた部隊に所属していた兵士たちは満州戦線の最前線に送られて大半の兵士たちが戦死し、無事に生き残ってもノモンハンなど激戦地帯に送られて全員戦死しています。

また、除隊して故郷に戻ってからも、周囲から非難の目を向けられるなど、生活がしにくくなり、

引っ越しを余儀なくされたものもいたようです。

かつて、埼玉県では埼玉県史編纂室の編集で『2.26事件と郷土兵』(昭和56年2月)『雪未だ降り止まず(続2.26事件と郷土兵)』(昭和57年2月)という2冊の本を刊行しましたが、時の畑和県知事(事件当時、歩兵第三連隊機関銃隊所属二等兵)をはじめとして多くの事件参加者の手記を載せています。

旧県立博物館では、昭和57年度にテーマ展「2.26事件と郷土兵」(昭和58年2月10日～4月17日)を開催しています。

その展示が縁で、反乱軍を指揮して特設された東京陸軍軍法会議の判決で死刑を宣告され7月12日に執行された高橋太郎少尉や安藤輝三大尉の遺文や新聞・雑誌の号外及び写真類などの資料が参加した元兵士の方々から寄託されたり、寄贈されたりしています。

横道記武氏は首相官邸襲撃グループに属していましたが、「首相の遺体を見たときに、なんとなく別人ではないかと思ったが、現場の雰囲気から言い出せなかった。29日に岡田首相無事の報を聞いたとき、やはり自分の勘は正しかった」と寄託資料カード作成の際の聞き取りに話してくれました。

2月9日(土)から3月30日(日)まで、常設展示室9でコラム展示「2.26事件と埼玉」を開催いたします。今から72年前に起こった、2.26事件を今一度思い返していただければと思います。

(民俗文化担当 針谷浩一)

## 民俗展示室が新テーマで内容を一新！！ 一年を生きる～埼玉の祭りと行事～

「埼玉県立歴史と民俗の博物館」は、新生博物館として2年目になります。これを機会に民俗展示室では、県内に伝承する多くの民俗文化財を紹介するため、展示替えを行いました。

展示テーマは、「技に生きる～埼玉の生産・生業・諸職～」に替えて「一年を生きる～埼玉の祭りと行事～」です。県内の山地や里・都市部に暮らす人々が豊かな生活を願い、協力しながら営んできた祭りと行事を紹介します。

また、「家々の歳時記」コーナーでは、家ごとの年中行事を季節の流れに合わせて順次展示替えます。ここでは、里・山・都市の祭りと行事、民俗芸能コーナーの見どころを紹介します。

### 里の祭りと行事

県東部の低地と台地では稲作と麦作を中心とした農業が営まれてきました。

この地域に広く分布するオビシャ行事は、豊作と無病息災を祈る年始めの祭りです。行事は、的を弓矢で打ち抜き、矢の当たり具合で晴雨の天候や農作物の豊凶、無病息災を占います。展示では、三郷市・八潮市・吉川市で用いられた鬼の顔や鳥、鶴を描き込んだ的と弓矢を紹介します。

そのほか、川口市の大蛇作り、春日部市の大風揚げ、ほろと呼ばれる華やかな飾り物を背負う川越市のほろ祭を展示します。

### 山の祭りと行事

県西部の山地・丘陵地帯では、林業や狩猟・養蚕が盛んに営まれてきました。

正月の仕事始めには山の恵みに感謝して山の神を祭り、山仕事の安全と大猟を祈ります。小正月には、山から切り出した木で作った粟穂と稗穂・繭玉・木刀・白い花が咲いた十二階花の飾り物を年神や山の神に供えて豊穰を願います。

流鏝馬コーナーでは、毛呂山町の出雲伊波比神社に伝わる流鏝馬行事の乗り子衣装と龍を描いた



出雲伊波比神社の流鏝馬（毛呂山町）

的、弓矢・馬具などを取り上げます。武蔵武士の戦勝を祝って始められた流鏝馬は、養蚕の豊作と子供の成長を願う祭りとして伝えられています。

### 都市の祭りと行事

人が多く集まり、政治や経済・文化の中心となっている都市に特徴的な習俗は、疫病の蔓延と災害を予防する祭りです。

特に、夏季は暑さが厳しく、降雨も少ない時期で、伝染病や害虫が発生しやすい季節です。夏に各地で開催される祇園祭や天王様は、疫病神である牛頭天王の祟りを鎮めるため、神輿を川に入れて清め、獅子を引きまわして厄を追い祓います。川越市のお太刀洗いや夏に行う厄祓いの行事です。

### 民俗芸能

民俗芸能は、祭りや年中行事の折々に五穀豊穰と悪疫退散を願い、健康と長寿を祈って行われます。埼玉県には、神を招魂して祓い清める神楽、厄除けと雨乞いの獅子舞、豊作を祝う万作踊り、健康と長寿を願う餅つき踊り、日々の生活に潤いをもたらす歌舞伎芝居などの民俗芸能が伝承しています。

(展示担当 山田 実)

# THE A MUSEUM

## 歴史と民俗の博物館イベント情報 (2月～6月)



埼玉県の  
マスコット  
コバトン

- 2月
  - 9日(土) 特別展「日本の色彩 藍・紅・紫」開催  
博物館裏方探検隊
  - 10日(日) 特別展展示解説  
ミュージアムトーク
  - 16日(土) サタデーミュージアム  
(昔の遊びを楽しもう)  
博物館裏方探検隊
  - 17日(日) ミニ絵凧作り  
ミュージアムトーク
  - 20日(水) 学芸員の仕事紹介
  - 23日(土) 特別展展示解説  
押絵羽子板作り  
サタデーミュージアム  
(里神楽体験教室)  
博物館裏方探検隊
  - 24日(日) 草木染め体験講座 (紅花染め)
- 3月
  - 1日(土) ひな祭りスペシャルイベント  
サタデーミュージアム  
(さんてこ雛子体験教室)  
博物館裏方探検隊
  - 2日(日) ひな祭りスペシャルイベント  
草木染め体験講座 (野草染め)
  - 4日(火)～  
23日(日) 印染(しるしぞめ) 展示会
  - 5日(水) 鋳物ペーパーウェイト作り
  - 6日(木) 博物館裏方探検隊
  - 8日(土) 博物館裏方探検隊
  - 9日(日) 草木染め体験講座 (藍染め)  
ミュージアムトーク
  - 15日(土) サタデーミュージアム  
(人形芝居体験教室)  
博物館裏方探検隊
  - 16日(日) 特別展展示解説  
ミュージアムトーク
  - 19日(水) 学芸員の仕事紹介
  - 22日(土) 博物館裏方探検隊
  - 29日(土) 博物館裏方探検隊

- 4月
  - 1日(火) 重要文化財「三十六歌仙額」
  - 5日(土) 博物館裏方探検隊
  - 12日(土) 博物館裏方探検隊
  - 13日(日) ミュージアムトーク
  - 19日(土) 博物館裏方探検隊  
学芸員の仕事紹介
  - 26日(土) 博物館裏方探検隊
  - 29日(火) お雛子体験教室  
博物館裏方探検隊
- 5月
  - 3日(土) ノスタルジックイベント  
博物館裏方探検隊
  - 4日(日) ノスタルジックイベント  
博物館裏方探検隊
  - 5日(月) ノスタルジックイベント  
一日館長  
博物館裏方探検隊
  - 6日(火) ノスタルジックイベント  
博物館裏方探検隊
  - 10日(土) 博物館裏方探検隊
  - 11日(日) ミュージアムトーク
  - 17日(土) 博物館裏方探検隊  
学芸員の仕事紹介
  - 22日(木) 藍の型染め暖簾作り
  - 23日(金) 博物館裏方探検隊
  - 24日(土) 博物館裏方探検隊
  - 31日(土) 博物館裏方探検隊
  - 6日(金) 木目込み人形作り
  - 7日(土) 博物館裏方探検隊
  - 8日(日) ミュージアムトーク
- 6月
  - 14日(土) 博物館裏方探検隊
  - 17日(火) 館内清掃・防虫処理のため臨時休館
  - 22日(日) 博物館裏方探検隊
  - 28日(土) 博物館裏方探検隊

❖ 特別展関連事業、 は要事前申込



交通機関  
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

### 埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地  
TEL. 048-641-0890 (管理)  
048-645-8171 (学芸)  
FAX. 048-640-1964  
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより  
Vol.2-3 (通巻) 第6号  
2008年2月1日発行

